

(11) Publication number: Japanese Unexamined Utility Model Application, First
Publication No. Hei 02-86318

(54) Title: ATTACHMENT FOR ATTACHING HANDLE TO BAG

(72) Inventor: MURASE, Mikio

ABSTRACT

CONSTITUTION: An attachment for attaching a handle to a bag includes an attachment body 7, a handle shaft 2, and a leg element 11. The attachment body 7, including a seat portion 1 and a leg portion 3, is integrally formed so that the leg portion 3 extends upward from the seat portion 1. An end of the handle shaft 2 is engaged with an upper portion of the leg portion 3. The seat portion 1 has a connection hole 4 into which a fixing element 14 is inserted for fixing the attachment body 7 to a bag body. The seat portion 1 also has an engagement portion 5 which is to be engaged with a concave engagement portion 8 formed in the leg element 11. The leg element 11 has a connection hole 9 into which a fixing element 14 is inserted for fixing the leg element 11 to the bag body. The leg element 11 also has an engagement hole 10 into which the other end of the handle shaft 2 is inserted.

⑫ 公開実用新案公報 (U)

平2-86318

⑬ Int. Cl. 5

A 45 C 13/26

識別記号

庁内整理番号

C

8508-3B

⑭ 公開

平成2年(1990)7月9日

審査請求 有 請求項の数 1 (全1頁)

⑮ 考案の名称 かばん用提手取付具

⑯ 実 願 昭63-167183

⑰ 出 願 昭63(1988)12月23日

⑱ 考 案 者 村 瀬 三 樹 雄 大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目3番5号 大阪鞆材株式会社内

⑲ 出 願 人 大阪鞆材株式会社 大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目3番5号

⑳ 代 理 人 弁理士 羽 淵 博

㉑ 実用新案登録請求の範囲

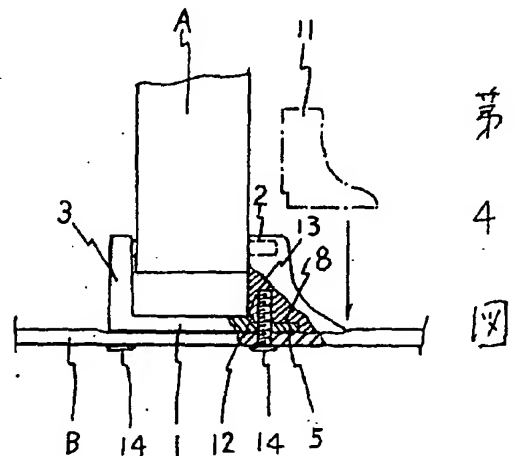
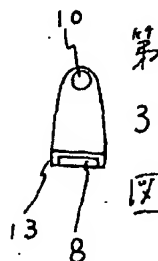
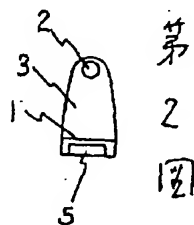
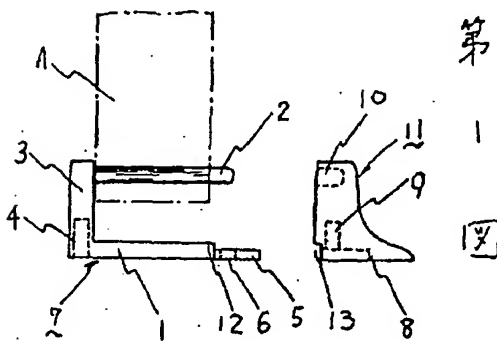
座部の一端の上面側にその上方に横杆の一端を固着している立脚部を一体として有していると共に同下面側に連結孔を設け、また同他端を被嵌合部とする該被嵌合部に連結用貫通孔を設けて成る取付具本体と、その下面に嵌合部を形成していると共に該嵌合部に前記連結用貫通孔に連通する連結孔を設け、またその上方に前記横杆の他端に嵌入すべき嵌合孔を設けている立脚体とから成るか

ばん用提手取付具。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の実施例の分解正面図、第2図は取付具本体の右側面図、第3図は立脚体の左側面図、第4図は使用状態図。

1……座部、2……横杆、3……立脚部、4……連結孔、5……被嵌合部、6……連結用貫通孔、7……取付具本体、8……嵌合部、9……連結孔、10……嵌合孔、11……立脚体。



⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-86318

⑬ Int. Cl.³

A 45 C 13/26

識別記号

C

庁内整理番号

8508-3B

⑭ 公開 平成2年(1990)7月9日

審査請求 有 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 かばん用提手取付具

⑯ 実 願 昭63-167183

⑰ 出 願 昭63(1988)12月23日

⑱ 考 案 者 村 瀬 三 樹 雄 大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目3番5号 大阪鞆材株式会社内

⑲ 出 願 人 大阪鞆材株式会社 大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目3番5号

⑳ 代 理 人 弁理士 羽 淵 博

1. 考案の名称

かばん用提手取付具

2. 実用新案登録請求の範囲

座部の一端の上面側にその上方に横杆の一端を固着している立脚部を一体として有していると共に同下面側に連結孔を設け、また同他端を被嵌合部とする該被嵌合部に連結用貫通孔を設けて成る取付具本体と、その下面に嵌合部を形成していると共に該嵌合部に前記連結用貫通孔に連通する連結孔を設け、またその上方に前記横杆の他端に嵌入すべき嵌合孔を設けている立脚部とから成るかばん用提手取付具。

3. 考案の詳細な説明

この考案はかばんの提手を取付けるかばん用提手取付具に関する。

提手取付具で多見するものとしては提手の下部の挿入孔に横杆を挿入し、該横杆の両端を取付具の立脚部の連結孔に挿入して連結しているものがあるが、これは前記横杆が立脚部の挿入

孔で固定されていないため、提手の揺動がひどく、鞆の携行時、強い揺動圧を足に受けて歩行しにくくなつたり、又、鞆の重量を重く感じたりしていた。又、鞆の天面と取付具の連結部にも揺動圧を受圧して、永年の間に連結部が損傷するといった欠点があつた。

上記、欠点を解消するため、これまでに提手取付具の一方の立脚部に貫通孔を設けると共にこの内周に螺子を刻み、他方の立脚部に前記貫通孔と対向するよう係合穴を設け、又横材は基端側に前記螺子に螺合する螺子部を設けたものがあり、これの提手の取付方法は横材を立脚部の貫通孔の外側より貫通させ立脚部間の提手の挿通孔に挿通させて、先端を係合穴に係止させる共に基端側を貫通孔の螺子部に螺着させて、横材を立脚部に固定している。而して横材は立脚部に固定されるから前記欠点は解消したことになるが、これは提手の取付作業において提手の挿通孔が立脚部で不外見となり、又係合穴が提手で不外見となるので、作業が非能率となる

字加入
字訂正
字削除

といった問題点がある。さらに長い間の使用で横杆と立脚部の螺合状態が脱れ、横杆が立脚部より脱抜するといった欠点もある。

この考案は前記従来の提手の諸欠点並びに諸問題点を解消するかばんの取付具を提供することを目的とする。

即ち、座部(1)の一端の上面側にその上方に横杆(2)の一端を固着している立脚部(3)を一体として有していると共に同下面側に連結孔(4)を設け、また同他端を被嵌合部(5)とする該被嵌合部に連結用貫通孔(6)を設けて成る取付具本体(7)と、その下面に嵌合部(8)を形成していると共に該嵌合部(8)に前記連結用貫通孔(6)に連通する連結孔(9)を設け、またその上方に前記横杆の他端に嵌入すべき嵌合孔(10)を設けている立脚体(11)とから成るかばん用提手取付具に係る。

以上の構成において、横杆(2)の一端は立脚部(3)に固着しているから、提手の横揺れは一切なく、又、横杆の他端が外面見状態で、立脚体(11)の嵌合孔(10)を簡単に嵌入させることができる。

加入
訂正
字
削除

以下にこの考案の実施例を述べる。

第1図はこの考案の実施例の分解正面図、第2図は第1図における取付具本体の右側面図、第3図は第1図における立脚体の左側面図、第4図は使用状態図。

取付具本体(7)は座部(1)の一端に立脚部(3)を一体的に設け、該立脚部(3)は上方に横杆(2)の一端が連結固着していると共に下面に連結孔(4)を設けている。又、座部(1)の他端に前記横杆(2)の他端より長く延びている被嵌合部(5)を第2図に示す如く段形成し、該被嵌合部(5)には連結用貫通孔(6)を設けている。

立脚体(11)は、上方に前記横杆(2)の他端に嵌入すべき嵌合孔(10)を設け、下方に前記被嵌合部(5)の手前の段形成していない部分の係合部(12)に係止する切欠部(13)を形成すると共に該切欠部(13)をその嵌合口になるように第3図に示す如く嵌合部(8)を□形成している。

嵌合部(8)には、被嵌合部(5)に挿通する連結孔(9)を設けている。尚、連結孔(4)並びに(9)は内周に

螺子を刻んでいる。

以上が実施例の構成で以下に作用効果を述べる。

横杆(2)は取付具本体(7)に固着しているから提手(A)を横杆(2)に挿通するのに横杆(2)を支持しておく必要はなく、又横杆(2)の先端もまた提手(A)の挿通孔の挿入口部も見えて確認できるから簡単に挿入でき、次に第1図に示す如く横杆(2)の他端は提手の他端より外出しているので、立脚体(1)の嵌合孔(10)を横杆の他端に嵌入することは極めて迅速に出来る。さらに、この実施例では被嵌合部(5)と横杆(2)の各側端の長さは異なるから、前記両方に立脚体(1)の嵌合孔(10)と嵌合部(8)の各々が同時に嵌合あわせする繁雑性はなく、又、実施例では座部(1)の被嵌合部(5)の方が長く延びているから例えば第4図の鎖線に示す如く立脚体(1)を被嵌合部(5)の側端に上方よりかぶせるようにして嵌入すると次に被嵌合部(5)が横杆(2)への嵌合孔(10)への嵌入が極めてスムーズに行い得る。

次に使用状態について説明する

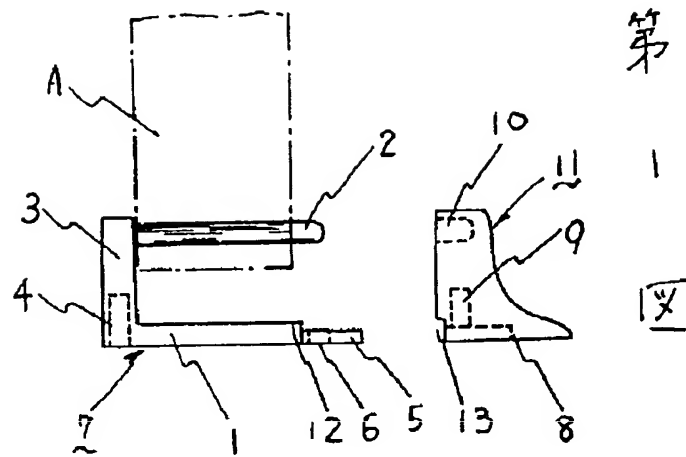
第4図に示す如く鞆の天面(B)にボルト(4)で取り付けられた提手取付具は被嵌合部(5)と嵌合部(8)の連結固定以外に係合部(12)が切欠部(13)と弾性を有している鞆の天面(B)に介在し、上下方向から強く締めつけられているから、取付具本体(7)と立脚体(11)は二重に締めつけられて強力に一体化されている。従つて鞆を携行するときに横杆(2)の前記他端側に大きく負荷がかか^{ても}取付具本体(7)と立脚体(11)は横杆(2)の他端側を前記の如く二重に連結しているから横杆(2)の他端が嵌合孔(10)でガタついたり、又は嵌合孔(10)の上部を押圧したりすることは防止されて、堅牢な提手取付を維持し得る。このように実施例は取付具が分離形で嵌合構造をしてはいるが、嵌合部分は従来^の一体形の如く堅牢で、嵌合部のガタつきを防止している。しかも横杆(2)は立脚部(3)に固着しているから鞆携行のとき鞆は横揺れして足に鞆が当る不快感並びに歩行の困難性はないので、重量のある鞆でも軽快に携行できる。

4 図面の簡単な説明

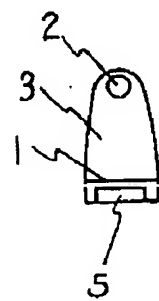
第 1 図は本考案の実施例の分解正面図、第 2 図は取付具本体の右側面図、第 3 図は立脚体の左側面図、第 4 図は使用状態図。

- (1) …… 座部 (2) …… 横杆 (3) …… 立脚部
(4) …… 連結孔 (5) …… 被嵌合部
(6) …… 連結用貫通孔 (7) …… 取付具本体
(8) …… 嵌合部 (9) …… 連結孔 (10) …… 嵌合孔
(11) …… 立脚体

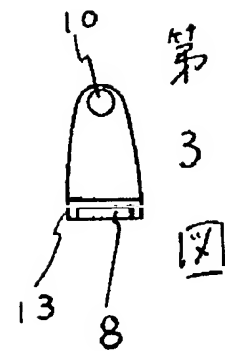
出願人 大阪鞆材株式会社
代理人 羽 堀 博



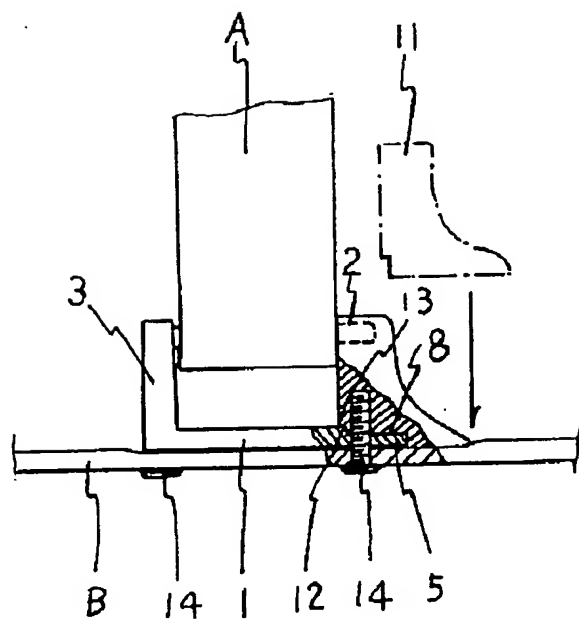
第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖



第 4 圖

代理人 大坂靴材株式会社
羽 渕 博

200

出願 2- 06210